

地域未来創造会議（天草地域）議事概要

1 日時 令和8年（2026年）1月30日（金） 14:55～17:20

2 場所 アマクササンタカミングホテル2F ホール

3 出席者

（1）市町長

堀江上天草市長、馬場天草市長、山崎芥北町長

（2）県議会議員（オブザーバー）

池田議員、山口議員、楠本議員

（3）県

[本庁]

木村知事、柴田政策審議監

若杉地域振興課長、藤由市町村課長、松尾スポーツ交流企画課長、谷水道路保全課長 他

[広域本部]

増田本部長、大谷総務部長、倉光土木部長 他

4 議事内容

（1）移住定住・二地域居住について

（2）サイクルツーリズムについて

5 会議資料 別添のとおり

結果概要

1 移住定住・二地域居住について

- ・二地域居住や移住定住を推進するうえで住まいの問題（空き家活用、シェアハウス整備、公営住宅や学校跡地の利活用・改修など）の解決が不可欠。
- ・保育園留学はリピーターも多く成果が出ているが、小学生に上がった後の短期受入れは、学校側の事務負担（教科書、机、学籍番号など）が大きく難しい。いわゆるデュアルスクール制度のように手続きが簡略化された受入制度の整備も含めて、教育委員会の負担軽減となる必要書類の標準化などの制度改善を国に働きかける必要がある。
- ・体験プログラム等については、3市町それぞれの個性を活かして整備したうえで、天草地域の受け皿として互いに融通し合えれば受入規模も確保できて良いのではないかと。

2 サイクルツーリズムについて

(1) 「あまくさ一周！あまいちグランfond2025」について

- ・天草がサイクリストの聖地となるシンボルとして、グランfondの継続的な開催は必要。
- ・家族連れでも楽しめる短距離コースやフォトスポット等を設定することで、サイクルツーリズムの裾野が広がる。
- ・今後のイベント運営には、スポンサー獲得や組織づくりが重要。ある程度行政が関与しつつ、民間の自転車関係者等の協力も得て、運営の組織構築を検討する必要がある。

(2) ナショナルサイクルルート指定を想定したサイクルツーリズムの推進について

- ・受入環境（メンテナンス拠点、サイクルステーション、宿泊施設）の整備に加え、ビジネスの成立を前提とした乗り捨での電動レンタサイクルの充実やガイド人材の育成が必要不可欠。
- ・「天草にナショナルサイクルルートがある」という認識を広げ、地域全体の自転車への理解と機運醸成につなげたい。また、多言語での情報発信や指定後のプロモーション活動も強化していく。
- ・ナショナルサイクルルート指定を見据え、課題や成功事例を共有しながら民間とも連携し、10年スパンのロードマップを作成するなど戦略的に取り組む必要がある。

今回の会議内容を基に、次の事項について引き続き県と市町村で事務的に今後の展開等を検討していくこととなった。

- (1) 二地域居住の取組みについては、各市町と県が連携しながら県内の先行モデル地域として実証事業を実施するなどして、天草地域全体の活性化を図っていく。
- (2) グランfondについては、令和9年度以降の継続開催を見据え、行政や民間が連携した運営体制の構築について検討を行う。
- (3) ナショナルサイクルルート指定を見据え、サイクルツーリズムの推進に係る課題や成功事例を共有しつつ民間とも連携し、10年スパンのロードマップを作成するなど戦略的に取り組む。